

# 令和3年度 家庭教育オピニオンリーダー研修⑤ 実施報告

実施日：令和3年11月2日（火）

今年度の研修はこれまでオンラインで実施してきましたが、新型コロナウイルス感染防止策を徹底し、今回初めて総合教育センターに集合して実施することができました。



## ○ 説明・演習「地域元気プログラムの説明と体験」

総合教育センター職員

地域の課題解決に向けて

- ①自分を含めた地域の大人たちに役割があることを知る（知識）
- ②その役割を具体的に理解する（技術）
- ③課題を解決して「元気」な地域をつくるために、実際にどんな取組ができそうか考える（行動）

地域元気プログラムでは、主に上記の3点について参加者が主体的に学べる「参加体験型」で行われることなど、説明をとおしてその特徴を確認しました。

その後、地域の子どもたちにどんな子に育てて欲しいかを考えるプログラムを体験しました。短時間での体験となりましたが、受講者は地域の現状と結びつけながら考え、「育てたい地域の子ども像」や、その育成に向けて自分を含めた地域の大人ができることについて、熱心に協議を行いました。この体験は受講者にとって、子育てを地域全体で行うことの必要性や意義を改めて考える機会となりました。



## ○ 演習「家庭教育支援事業の企画」

総合教育センター職員

この演習は、当研修のまとめとして位置づけられています。子育てや家庭教育の支援に関する講話、コミュニケーションやカウンセリングマインドに関する演習などをとおして学んだことや理解したこと、気づいたことを生かしながら、家庭教育支援事業をグループごとに企画します。

はじめに、演習のスケジュールと進め方、ワークシートの使い方や発表原稿の形式などに関する説明を聞きました。そして、ワークシートを活用し、「現状と課題」、「事業名（タイトル）」、「事業目的」、「事業内容」について考えました。特に家庭教育やその支援に関する現状と課題を考える際は、各グループで熱心な意見交換が行われました。その後も意欲的に企画立案の作業が進められ、各グループともに事業内容をより具体的で実現可能なものにすることに注力していました。

次回、最終日の発表が楽しみです。



## ☆受講者の声（アンケートから）

- ・地域からみる「子ども」「子育て」について、考えることができました。
- ・事業を企画する際に、データの根拠を基に現状と課題を明確にすることの大切さを学びました。また、企画内容から現状と課題にさかのぼることで具体化が足りない部分などが見付き、見直しの必要性も学びました。
- ・様々な世代の方々から今の子育てに対する考え方を聞くことで、自分の子育てを見直すきっかけとなりました。
- ・グループの皆さんと話し合い、楽しく事業の企画を進めることができたので良かったです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで  
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp